

アルジェリア政治・経済月例報告
(2021年12月)

2022年1月
在アルジェリア日本国大使館

内政

- 1日、ベンアブドゥルラフマーン首相兼財務相は政府会合を開催。スタートアップに対応した新たな会社の形態を可能とする等の商法の改革案や、汚職対策のハイレベル当局創設に関する法案、科学技術に関するアルジェリアアカデミーの組織関連法案、海外で死亡したアルジェリア国民への支援に関する法案等を審査。
- 1日、運輸省は6日以降、海路からの旅行者に対するワクチン接種証明書提示の義務化を発表。
- 5日、テブン大統領は閣議を開催。①科学技術アカデミーの設立、②オラン地中海競技大会に向けた準備状況の確認、③新たな国際海底ケーブルの敷設、④スタートアップ企業に関する国際市の2022年初頭開催、⑤自動車輸入条件の見直し及び販売資格認可の加速等を指示。また、自動車ディーラーの受け入れ条件には、都市部と地域部でのアフターサービスネットワークの提供が必要と強調。
- 11日、独立戦争中1960年のデモを記念し、テブン大統領はアルジェリア人の犠牲を称えるメッセージを発出。
- 11日、首相府はコロナ禍に伴う現行措置を15日間延長することを決定。
- 12日、テブン大統領のイニシアチブのもと、ベンアブドゥルラフマーン首相兼財務相はヘンシュラにて政府会合を開催。現政権で初めてのアルジェ外開催であり、同県発展を目的として政府は約1133億ディナールの動員を決定。
- 19日、テブン大統領は閣議にて、司法、高等教育、及び農業分野に関連する法案を審議。また、商法を改正し、現在の経済改革と貿易活動に適応させるためのワーキンググループの設立を指示。
- 19日、FIFA アラブカップ2021にてアルジェリア代表が優勝。ベンアブドゥルラフマーン首相兼財務相が空港にて代表チームの帰還を出迎え、テブン大統領は祝意のメッセージを発出した他、人民宮殿にてセレモニーを開催。
- 16日から20日にかけて、シノバックの代表団がアルジェリアを訪問。サイダル社、保健省、及び当地パスツール研究所を訪問し、今後、アルジェリアとの協力において様々なタイプのワクチン製造をすることを希望すると発表。
- 22日、テブン大統領は、2月5日に行われる国民評議会（上院）の議員半数を更新するための選挙人団召集に関する大統領令に署名。
- 23日、ベンアブドゥルラフマーン首相兼財務相は、手続きの効率化や公共支出の効果的な管理を目的とした公共調達に関連する文書や情報をオンラインで発信する電子公共調達ポータルへの立ち上げ式典に出席。
- 23日、ベンアブドゥルラフマーン首相兼財務相は、アルジェリア郵便局とインタ

ーバンクネットワークとの間の電子決済システムの相互運用を開始する協定の署名式に出席し、決済システムの近代化プログラムの概要につき発表。2024年までに1600万枚以上の決済用カードが発行され、100万以上の加盟店が決済端末を備える計画であるとした。

●24日、独立選挙機関（ANIE）は、国家評議会（上院）議員の一部改選に向けた立候補申請期限を1月16日までと決定。

●26日、政府は感染症対策措置として、出入国及び集団的な使用又は公衆の受け入れに供される空間、場所及び建物への立入についてワクチンパス（pass vaccinal）制度の導入を進めることを発表。第一段階として26日から10日間、スポーツ施設、会議・セミナー会場、映画館、劇場、美術館、国や地域の式典会場、展示会場、ハラム等におけるワクチン接種証明書の提示を義務化。

●29日、テブン大統領は、市民社会国家研究所（Observatoire national de la société civile）の議長及び議員を任命。また、国家人権評議会（Conseil national des droits de l' homme）の設立に署名した。

外交

●2—4日、オランで第8回アフリカ連合平和・安全保障理事会ハイレベル会合を開催。ラマムラ外相は、国連安保理内においてアフリカ統一の立場を主張する重要性を強調。

●5—7日、国賓として訪問したアッバース・パレスチナ自治政府大統領はテブン大統領やベンアブドゥルラフマーン首相兼財務相と会談。パレスチナへの1億ドルの援助に加え、パレスチナ人学生300名のアルジェリアの大学への入学支援等を発表。

●6日、テツビ法相はカイロで開催されたアラブ法相会合において、汚職対策として、外国に流出した資金を回収するためのアラブプロトコルの作成を提案。

●8日、ル・ドリアン仏外相がアルジェを訪問、テブン大統領を表敬しラマムラ外相と会談。大統領表敬後の記者会見において、停滞していた移民、テロ対策に関する両国間対話の再開を発表。

●9日、ベンアブドゥルラフマーン首相兼財務相はチュニジアを訪問。両国財務・エネルギー、鉱業、産業、商業、交通、公共事業、保健大臣を集めた政府協議を共催。テブン大統領チュニジア訪問に向け、二国間関係、司法枠組に関する協議を行った。15—16日、テブン大統領はチュニジアを国賓として訪問し、複数分野で計27の協力協定に署名。

●9—10日、ブガリ国民議会（下院）議長はトルコで開催された第16回イスラム協力機構加盟国理事会会合に参加。

●11日、ハニ下院外務委員会委員長はスペインパルマ島で開催されている第45回西サハラ支援・連帯欧州会議において、各国の議会を集めた西サハラに関する会議をアルジェで開催する意欲を表明。

●11—12日、グルリッチ＝ラドマン・クロアチア外相がアルジェを訪問。ラマム

ラ外相と会合し、両外相は外交関連研究の協力覚書に署名。

● 11日、第16回イスラム協力機構議会会合に参加しているブガリ下院議長は、会合マージンでトルコ・ニジェール・イランの議会議長らと会談。

● 13日、ブガリ下院議長は当地韓国大使と会談を行い、アルジェリア・韓国友好議連を近日中に立ち上げる旨発表。

● 14日、ラマムラ外相はAU平和安全保障理事会オンライン閣僚会合において、アフリカにおける違法資金・武器流入に対処する共通アプローチの重要性を強調。

● 16日、テブン大統領はチュニジア訪問を終了。サイド大統領やブーデン首相と会談を行った他、チュニジアのアルジェリア人コミュニティ代表団と面会。記者会見では、統一的で包括的なアラブ首脳会議の開催の意思を発表。

● 17日、ベルマフディ宗教・ワクフ相はアフリカサヘル地域に宗教教育機関を設立し、過激主義や急進主義との戦いの経験を伝えることで穏健な考え方を広める方針を発表。

● 19日、ベンアブドゥルラフマーン首相兼財務相はトルコを訪問。第3回トルコ・アフリカサミットに出席し、ラマムラ外相と共にエルドアン首相と会談を行った。ラマムラ外相は、セネガル、チュニジア、ナイジェリア等の外相とも会談。

● 20日、テブン大統領はFIFA アラブカップに際してチュニジアのサイド大統領と電話会談を行った他、カタールのアール＝サーニ元首との電話会談にて、カタールの国祭日への祝意を伝え、同アラブカップのカタール開催を賞賛した。

● 23日、国民議会（下院）の議員団は、アラブ議会のアデル・アブドゥルラフマン・アル・アソミ議長と会談。同議長は、来年3月に行われるアラブ・サミット開催へ向けたアルジェリアの努力を賞賛。

● 26日、ベラーニ外交特使（西サハラ・マグレブ諸国担当）は、アラブ連盟事務局が採択した西サハラに関する新地図について、モロッコによる重大な操作、数回に及ぶ欺瞞であると発言。

● 27—29日、ガズワニ・モーリタニア大統領が国賓訪問。テブン大統領との会談の他、内務相、エネルギー・鉱業相ら閣僚7名を交えた会談及び首相兼財務相及び両議員長との会談を開催。会談後、テブン大統領は両国による国境地帯での協力やビジネスの促進について表明。両国は同機会に、高等教育、保健、職業訓練、零細企業分野に関する複数の協力覚書を締結。29日、モーリタニア議員団がアルジェを訪問し、ガズワニ大統領はアルズー工業地帯を視察。2日の閣議ではテブン大統領がモーリタニアとの海路開設を指示。

経済

● 2日、アルカブ・エネルギー鉱物相は、2021年末までに当国東部のリン酸塩処理プラントプロジェクトの実施を担当する合併会社の設立を発表した。合併会社は、ソナトラックグループ子会社アスミダル、マナル・マイニンググループにより構成され、既にいくつかのオファーを受けているとし、現在は最終的な評価段階にあると述

べた。

● 4—6 日、産業振興に関する産業省主催会合が開催。テブン大統領は開会式で、2022 年は経済に特化した年になる旨述べ、これまで、当国の工業部門は、冶金、繊維、石油化学等の過剰設備工業化により、金融、政治、安全保障上の危機をもたらしたとし、更に官僚制により投資計画が阻害されていることを厳しく批判。汚職を撲滅し、公金の浪費をなくすために必要な対策を早急に講じることで、この状況に対処することが可能である旨述べた。同開会式にはグジル上院議長、ブガリ下院議長、首相以下閣僚、C N E S E 議長等が出席。ゼグダール産業相は、産業成長を促進するべく、政府の経済、行政関係者がロードマップを策定するためのアクションプランのドラフトを発表し、特に、輸入品を国産品で代替すること、工業部門における工業製品の輸出促進の 2 つの主目的を達成するためのものであると強調。

● 8 日、ゼグダール産業相は、テレビ番組において 2022 年 1 月末までに自動車の輸入条件に関する新しい仕様書を完成させ同年に新車を市場に投入すると述べたが、その数時間後、同省の担当部長は、仕様書の完成は来年 3 月末になると訂正した。

● 9 日、製薬会社バイオフームは、これまで輸入していた 3 種類の癌治療薬を製造するユニットを立ち上げたことを発表。

● 10 日、アメトナ社は、ナツメヤシから抽出したエタノールから外科用アルコール製造工程を立ち上げた。この取り組みにより、同アルコール製品の輸入量を最大 25 %削減が可能である旨発表。

● 12 日、自動車生産等にかかる汚職事件の裁判で、セラル元首相とウーヤヒア元首相に懲役 7 年、産業・運輸省元大臣、及び他の被告人には懲役 1 ～ 4 年の判決が下された。

● 13 日、第 29 回アルジェリア産品フェアの開会式に出席したベンアブドゥルラフマーン首相兼財務相は、軍事産業とその他産業の相互補完性につき強調。

アルジェリア対外銀行 (BEA) のブースに立ち寄り、アルジェリアの国内銀行に対し、生産的なプロジェクト、特に国産品代替により輸入の削減に貢献するプロジェクトに対して支援を強化するよう呼びかけた。

● 14 日、関税総局 (DGD) と韓国国際協力団 (KOICA) は、シングル・ウィンドウ・プロジェクトの実施に関する協力協定を締結。この協定により、KOICA はアルジェリア税関と協力して、税関システムのデジタル変革プロセスの一環として税関手続きの簡素化に資するシステムを 2022 年第一四半期に稼働予定。

● 14 日、国営石油公社ソナトラックと伊 ENI 社は 14 億ドルの投資共同生産計画及びエネルギー移行に関する契約をアルジェで締結。

● 16 日、当地トルコ大使は、貿易協定の作成とアルジェリア・トルコ商工会議所の設立に向けて、両国間で協議中であることを発表。

● 17 日、運輸省は 1 月 9 日からニジェールとの間で週 1 便のフライトを運航すると発表。

● 20 日、ゼグダール産業相は、投資法の改正が最終段階にあり、年内には発表でき

ると述べた。

●20日、アブドゥルハミード農業農村開発相は、21日から粉ミルクの輸入における検疫免除措置の凍結を解除することを発表。

●21日、ロストム・アルジェリア銀行（中央銀行）総裁は、2021年9月末の外貨準備高が約440億ドルであり、銀行の流動性水準が2020年12月末の6,323億ディナールから2021年11月末時点で1兆4,856億ディナールへと改善された旨発表。

●23日、国営石油公社ソナトラック社の総会が開催され、2022年度予算案が承認された。また、2022～26年の生産・投資・販売、投資・雇用のための資金調達に関する2022～2026年の中期開発計画も採択された。

●25日、エネルギー転換・再生可能エネルギー省は、ウェブサイトにて、1,000メガワットの太陽光発電設備建設に関する入札公告を掲載した。

●26日、国家統計局（ONS）は、2021年第3四半期の公共部門の工業生産は前年同期比4.6%増。炭化水素部門は、原油と天然ガスの生産量増に支えられ1.8%増となったと発表。

●28日、国営通信APS及び政府系エル・ムジャヒド紙は、23日に世界銀行が発表したアルジェリア定期報告書に関して、同報告書は、アルジェリアの優れた経済的及び社会的な実績を全て隠蔽し、貧困レベルは本来問題ない状況であるにも関わらず貧困指標の数字を捏造し、アルジェリアを敵視した視点で記載されているとして、アルジェリアは世銀の干渉を拒否すると非難した。一方、30日、ベンアブドゥルラフマーン首相兼財務相は、同世銀報告書は、他の国際機関の報告書と対照的であり、アルジェリア経済の成長とポジティブな経済指標の達成も記載されている、一部のメディアが同報告書に関しネガティブな誇張分析を行っているが同報告書はポジティブな指標に満ちているとして、報告書の精読を呼びかけた。

●29日、アルカブ・エネルギー鉱業相は、2021年1月～9月の炭化水素生産量は、2020年9月末石油換算量1億470万トンから、2021年9月末に1億2,150万トンと前年同時期と比較して16.1%増となり、輸出は、22%増石換算量7,200万トンとなった旨述べた。

●30日、テブン大統領は2022年予算案に署名。同予算案では、原油基準価格を1バレル45ドル、原油市場価格を1バレル50ドルとし、経済成長率を3.3%、うち非炭化水素の成長率を3.7%、インフレ率を3.7%としている。

治安

●3日付報道。11月27日に行われた地方選挙に際し、ブイラ県で投票所に押し入り投票箱を破壊する等、選挙を妨害した13人が逮捕された。

●9日付報道。ムシラ県において、教師600人が給与の未払いを理由にストライキを実施。8人が逮捕された他、警察官に警棒で殴打された男女が負傷した。

●12日、ラグアット県警は国家の安全・安定への侵害、人員募集を目的とした情報

機器の使用及び過激思想の喧伝等の容疑でラシャド運動の関係者 14 人を逮捕した。

● 16 日、国家憲兵隊は、2021 年にアルジェリアで逮捕されたアフリカ国籍の不法移民が 1 万人以上に及んでおり、その数は 2016 年以降年々増加していると発表した。不法移民については、コロナに関する各種規制措置が緩和された後、その数が倍増したと指摘されている。

● 16 日夜、アルジェ県のバベル・ウェッド地区において、警察の銃撃によって若者 2 人が死亡、その他 2 人が負傷した。国家警察庁は、若者の死亡は警察の銃撃に責任があるとして、関与した警察官を拘束したと発表。

● 18 日夜、サッカーのアルジェリア代表がアラブ選手権で優勝した。歓喜に沸く一部のサポーターがエスカレートし、オラン県で若者が車に轢かれて死亡したのを始め、少なくとも 3 人が死亡、50 人以上が負傷したとされている。

● 24 日、アルジェリア政府による表現の自由抑圧に反発し、政治活動家、思想犯の家族、弁護士、ジャーナリスト及び市民社会活動家等が「意見表明の抑圧に反対し思想犯釈放を目指す戦線」を結成。アルジェの政党 RCD の本部で会合を開き、人権状況が日に日に悪化している状況、ヒラク強硬派を逮捕収監する思想弾圧への傾向（単に収監者を訪問した者までが逮捕されている）を非難し、思想犯の釈放と自由の確立を要求した。

（了）